

2025年度 ルールブック修正新旧対照表									
旧					新				
P	条項等	内 容			P	章	条項	内 容	
【一般(共通)】									
			2024年度版 ソフトバレーボール競技規則 ソフトバレーボール小学生競技規則 付 録 1 公式記録記入法 2 プロトコール 3 ケースブック 4 ソフトバレーボールリーダー活動実績報告書					2025年度版 ソフトバレーボール競技規則 ソフトバレーボール小学生競技規則 付 録 1 公式記録記入法 2 プロトコール 3 ケースブック	
6			まえがき ソフトバレーボールは、1987年正式に競技規則を制定し、歩み始めてから37年を迎えました。当時、(略)			6		まえがき ソフトバレーボールは、1987年正式に競技規則を制定し、歩み始めてから38年を迎えました。当時、(略)	
12			ソフトバレーボールの歩み (略) 2023年 2月 サービスゾーン、ショートサービスゾーンの定義を明確化する修正を行った。 (略)			11		ソフトバレーボールの歩み (略) 2023年 2月 サービスゾーン、ショートサービスゾーンの定義を明確化する修正を行った。 2024年 2月 フットフォルトとパッシングザセンターラインをベネトレーションフォルトに統一した。 (略)	
13	目 次		(略) 第1章 施設と用具 1 競技場(第1図) 1.1 競技場 1.2 コート 1.3 サービスゾーン 1.4 チームベンチ 1.5 記録席 (略) 付録1 公式記録記入法 付録2 プロトコール 付録3 ケースブック ●公式記録記入例 巻末 ●公認ソフトバレーボールリーダー活動実績報告書 巻末			13	目 次	(略) 第1章 施設と用具 1 競技エリア(第1図) 1.1 競技エリア 1.2 コート 1.3 サービスゾーン 1.4 チームベンチ 1.5 記録席 (略) 付録1 公式記録記入法 付録2 プロトコール 付録3 ケースブック ●公式記録記入例 巻末	
17	第1章	1	競技場(第1図)			17	第1章	1	競技エリア(第1図)
17		1.1	競技場			17		1.1	競技エリア
17		1.1.1	競技場には、コートおよびフリーゾーンが含まれる。			17		1.1.1	競技エリアには、コートおよびフリーゾーンが含まれる。
17		1.1.2	競技場の表面から最低限7mの高さとフリーゾーンにはネット、支柱、審判台を除き、一切の障害物があってはならない。			17		1.1.2	競技エリアの表面から最低限7mの高さとフリーゾーンにはネット、支柱、審判台を除き、一切の障害物があってはならない。
17		1.1.3	競技場は、平坦かつ水平であり、荒れていたり滑りやすい表面であってはならない。			17		1.1.3	競技エリアは、平坦かつ水平であり、荒れていたり滑りやすい表面であってはならない。
17		1.2.3	すべてのラインの幅は4cmで、サービスゾーンを区画するライン以外はコート内に含まれる。それらのラインは明るい色で、床や他のラインとも異なる色でなければならない。			17		1.2.3	すべてのラインの幅は4cmで、サービスゾーンを区画するライン以外はコートに含まれる。それらのラインは明るい色で、床や他のラインとも異なる色でなければならない。
17		1.3.2	ショートサービスゾーンは、センターラインの1.98m 後方に引かれたショートサーブスライン後方のコート内とサービスゾーンである。			17		1.3.2	ショートサービスゾーンは、センターラインの1.98m 後方に引かれたショートサーブスライン後方のコートとサービスゾーンである。
18		第1図	〈第1図 競技場の規格〉			18		第1図	〈第1図 競技エリアの規格〉
19	第2章	4.4	ファミリーの部、トリムの部、レディースの部を構成する場合は、試合中、コート内にはつねに次の規定の選手がいなければならない。			19	第2章	4.4	ファミリーの部、トリムの部、レディースの部を構成する場合は、試合中、コート上にはつねに次の規定の選手がいなければならない。
19		4.4.1.1	チームの構成は、同一家族または、複数家族であってもよいが、コート内の規定の選手との交代が可能ないように構成する必要がある。			19		4.4.1.1	チームの構成は、同一家族または、複数家族であってもよいが、コート上の規定の選手との交代が可能ないように構成する必要がある。
20		4.4.2	トリムの部 コート内の選手を年齢区分によって、次のようにする。			20		4.4.2	トリムの部 コート上の選手を年齢区分によって、次のようにする。
20		4.4.3	レディースの部 コート内の選手は18歳以上と40歳以上の女性それぞれ2人とする。			20		4.4.3	レディースの部 コート上の選手は18歳以上と40歳以上の女性それぞれ2人とする。
20		6.1.2	監督およびチームキャプテンは、チームの規律について責任を負わなければならない。なお、コート内の選手の一人は、ゲームキャプテンでなければならない。			20		6.1.2	監督およびチームキャプテンは、チームの規律について責任を負わなければならない。なお、コート上の選手の一人は、ゲームキャプテンでなければならない。
21		6.1.4	競技参加者は、試合中チームベンチにいる限り、コート内の味方選手に対して声援や、話しかけることができる。			21		6.1.4	競技参加者は、試合中チームベンチにいる限り、コート上の味方選手に対して声援や、話しかけることができる。
21		6.2.3	監督は試合中、チームベンチの記録席に最も近い位置に座っていなければならない。競技中断中は立ち上がって指示をしても良い。			21		6.2.3	監督は試合中、チームベンチの記録席に最も近い位置に座っていなければならない。競技中断の間は立ち上がって指示をしても良い。
21		6.2.4	監督は、選手交代およびタイムアウトを要求することができる。しかし、選手としてコート内にいるときは、その権利を失う。			21		6.2.4	監督は、選手交代およびタイムアウトを要求することができる。しかし、選手としてコート上にいるときは、その権利を失う。
21		6.3.3	チームキャプテンは、試合中、選手交代をして、コートを離れるときは、ゲームキャプテンとしての権利を失うため、コート内の選手から代理のゲームキャプテンを指名しなければならない。コート内に戻った時は、自動的にゲームキャプテンになる。			21		6.3.3	チームキャプテンは、試合中、選手交代をして、コートを離れるときは、ゲームキャプテンとしての権利を失うため、コート上の選手から代理のゲームキャプテンを指名しなければならない。コート上に戻った時は、自動的にゲームキャプテンになる。
23	第3章	10.1.2	サーバーによりボールが打たれた瞬間に両チームの選手は、サーバーを除きコート内側でそれぞれのポジションに位置していなければならない。			23	第3章	10.1.2	サーバーによりボールが打たれた瞬間に両チームの選手は、サーバーを除きコート上でそれぞれのポジションに位置していなければならない。
24		10.1.2.3	レフトの選手とライトの選手の位置関係 ライト(レフト)に位置する(中略)ライト(レフト)のサイドラインの近くに位置していること。			24		10.1.2.3	レフトの選手とライトの選手の位置関係 ライト(レフト)に位置する(中略)ライト(レフト)のサイドラインの近くに位置していないなければならない。
25		11.1.3	タイムアウトの間、コート内の選手は、チームベンチ近くのフリーゾーンに出なければならない。			25		11.1.3	タイムアウトの間、コート上の選手は、チームベンチ近くのフリーゾーンに出なければならない。

2025年度　ルールブック修正新旧対照表									
旧					新				
P	条項等		内　　容		P	章	条項	内　　容	
30	第5章	17.4.2	サーバーは、主審のサービス許可の吹笛後すみやかにボールを打たなければならない。主審の吹笛以前に行われたサービスは、無効となり 打ち直される。		30		17.4.2	サーバーは、主審のサービス許可の吹笛後すみやかにボールを打たなければならない。主審の吹笛以前に行われたサービスは、無効となり やり直す。	
31		18.7	両チームの選手が（中略）また、そのボールが コート区画線 の完全な外側の床に接触した場合は、落ちた側の得点となる。		31		18.7	両チームの選手が（中略）また、そのボールが コートのライン の完全な外側の床に接触した場合は、落ちた側の得点となる。	
32		19.5	「ファミリーの部」では、 サービスされたボール全体 がネット上端より高い位置にあるとき、バックに位置した大人の選手がアタックヒットを完了したときは反則となる。		32		19.5	「ファミリーの部」では、 _____ ボール全体がネット上端より高い位置にあるとき、バックに位置した大人の選手がアタックヒットを完了したときは反則となる。	
32		20.5	ボールが相手 コート内 にある場合に、ネット上を越えて、これをブロックすることは許されない。その基準はボールと手（身体）の接触点で判定される。（第5図）		32		20.5	ボールが相手 コート上 にある場合に、ネット上を越えて、これをブロックすることは許されない。その基準はボールと手（身体）の接触点で判定される。（第5図）	
33		21.1	ボールイン ボールが、 区画線を含むコート内の床 に接触したとき、そのボールはインとなる。（第7図）		33		21.1	ボールイン ボールが、 ラインを含むコートの床 に接触したとき、そのボールはインとなる。（第7図）	
33		21.2.1	ボールが、 コート区画線 の完全な外側の床に接触するか、 コート外 の物体に接触したとき。		33		21.2.1	ボールが、 コートのライン の完全な外側の床に接触するか、 コートの外側 の物体に接触したとき。	
34		22.1.2	サーバーによりボールが打たれた瞬間に、サーバーを除く両チームの選手が、それぞれの コート外 の床に接触していたとき。		34		22.1.2	サーバーによりボールが打たれた瞬間に、サーバーを除く両チームの選手が、それぞれの コートの外側 の床に接触していたとき。	
34		22.1.3	センターラインを完全に越えて、相手コートに接触したとき。ただし、片方の足（両足）または片方の手（両手）の一部がセンターラインに接触しているか、 その直上に踏っていないければ許される。 （略）		34		22.1.3	センターラインを完全に越えて、相手コートに接触したとき。ただし、片方の足（両足）または片方の手（両手）の一部がセンターラインに接触しているか、 その直上に踏っていれば許される。 （略）	
34		22.4.3	サービスしたボールが、サーバー側の コート内の床 に接触したとき。		34		22.4.3	サービスしたボールが、サーバー側の コートの床 に接触したとき。	
35		22.11	オーバーネット ネットを越えて相手 コート内 にあるボールに接触したとき。		35		22.11	オーバーネット ネットを越えて相手 コート上 にあるボールに接触したとき。	
35		22.12. 1	ボールが コート外の物体 やネット上方のアンテナのみに接触したとき。		35		22.12. 1	ボールが コートの外側の物体 やネット上方のアンテナのみに接触したとき。	
35		22.12. 3	ボールが床に接触し、その部分が完全に 区画線の外側 であるとき。		35		22.12. 3	ボールが床に接触し、その部分が完全に コートのラインの外側 であるとき。	
35		22.12. 5	ボールがフリーゾーン を越えたとき。		35		22.12. 5	ボールが完全にフリーゾーン を越えたとき。	
35	第5章	22.12. 6	他の選手や 競技場内 の物体で身体を支えたり、これを利用してボールをプレーしたとき。		35		22.12. 6	他の選手や 競技エリア内 の物体で身体を支えたり、これを利用してボールをプレーしたとき。	
36		22.14. 2	相手コート内 にあるボールに、ネットの反対側から故意に接触してプレーを妨害したとき。		36		22.14. 2	相手コート上 にあるボールに、ネットの反対側から故意に接触してプレーを妨害したとき。	
39	第7章	26.1.4	主審は、試合開始前あるいは試合中に、 競技場 やその状況が競技に適しているかどうかを決定する責任をもつ。		39		26.1.4	主審は、試合開始前あるいは試合中に、 競技エリア やその状況が競技に適しているかどうかを決定する責任をもつ。	
40		26.2.1. 1	競技場 、ボールや他の用具の状態を点検する。		40		26.2.1. 1	競技エリア 、ボールや他の用具の状態を点検する。	
40		26.2.2. 2	次のことを吹笛し判定する。 (a) サーバーおよびサービングチームのポジションに関する反則。 (b) ボールをプレーするときの反則。 (c) ネット上方、およびその上部に関する反則。 (d) ゲーム中、緊急にラリーを中断するとき。		40		26.2.2. 2	次のことを吹笛し判定する。 (a) サーバーおよびサービングチームのポジションに関する反則。 (b) ボールをプレーするときの反則。 (c) ネット上方、およびその上部に関する反則。 _____	
					40		26.2.2. 3	特殊な事情が発生したときは、吹笛しラリーを中断する。	
		27.1.1	副審は、主審の反対側で、 コート外側 の支柱付近に立って任務を遂行する。		40		27.1.1	副審は、主審の反対側で、 _____ 支柱付近に立って任務を遂行する。	
40		27.2.1	各セットの開始時に、 コート内 の選手がラインアップシートどおりか、チェックする。		40		27.2.1	各セットの開始時に、 コート上 の選手がラインアップシートどおりか、チェックする。	
41		27.2.2	試合中、副審は、次の点に関して判定し、吹笛をして合図する。		41		27.2.2	次の反則があったときは、吹笛し続いて公式ハンドシグナルを用いて、その種類を示す。ただし、主審の吹笛に続いて他の反則の吹笛はしない。	
41		27.2.2. 8	ゲーム中、緊急にラリーを中断するとき。						
					41		27.2.3	特殊な事情が発生したときは、吹笛しラリーを中断する。	
〈第10図　主審と副審の公式ハンドシグナル〉									
47	第7章		●ベントレーションフォルト ⑮ 片方の手でセンターラインまたは足元を指す。 17.4.5、 7.4.6 、22.1、26.2.2.2(b)、27.2.2.3		47	第7章		●ベントレーションフォルト ⑮ 片方の手でセンターラインまたは足元を指す。 17.4.5、 17.4.6 、22.1、26.2.2.2(b)、27.2.2.3	
小学生ルール									
55			まえがき ソフトバレーボールは、1987年正式に競技規則を制定し、歩み始めてから 37年 を迎えました。小学生を（略）		55			まえがき ソフトバレーボールは、1987年正式に競技規則を制定し、歩み始めてから 38年 を迎えました。小学生を（略）	
58		3.6	サーバーにより、ボールが打たれた瞬間に、サーバーを除く両チームの選手は、それぞれの コート内 にいないなければならない。		58		3.6	サーバーにより、ボールが打たれた瞬間に、サーバーを除く両チームの選手は、それぞれの コート上 にいないなければならない。	
付録1　公式記録記入法									
60			■2・3 セット開始前 ① 各チームのポジションシートの中央の○の中にA、Bを入れる。ラインアップシートに基づいてスターティングメンバーの番号を記入する。 ②（略）		60			■2・3 セット開始前 ① 各チームのポジションシートにラインアップシートに基づいてスターティングメンバーの番号を記入する。ただし、第3セットはトスの結果に基づき各チームのポジションシートの中央の○枠にA、Bを記入する。 ②（略）	
付録2　プロトコール									
63	プロトコール 1分30秒前 主審・副審		主審は吹笛で、プレーヤーを コート内 に導く。副審および記録員はそれぞれスターティングラインアップを照合する。 その後、副審は、ボールを最初のサーバーに送る。		63	プロトコール 1分30秒前 主審・副審		主審は吹笛で、プレーヤーを コート に導く。副審および記録員はそれぞれスターティングラインアップを照合する。 その後、副審は、ボールを最初のサーバーに送る。	